

# 教えの庭から

仏壇で拝む時、あるいは葬儀や法事の時に、合掌と焼香をします。その所作は仏様や故人を思つてするのですが、なんとなく皆がするのでしている人も、いろいろに思えましたので、その意味について考えてみたいと思います。

仏教発祥の地であるインドでは、目の前にいる相手に対して敬意や感謝の意を表すために合掌をします。その国では、右手は清らかな手(清浄な手)、左手は清らかでない手(不浄な手)と考えられています。例えば、インド人は食べ物を直接右手でつかんで食事を行います。これは、食べ物に「ありがたい恵み」なので、清浄な手で頂くというわけです。また、インドの多くの家庭にはトイレトペーパーが常備されていないそう

## 合掌と焼香について

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

です。トイレを済ませた後は、左手(不浄な手)で直接お尻をふき、常備されている桶で左手を洗うということです。

このように、インドでは両手を清浄と不浄で使い分け、左手の温もりが右手に互いに伝わるように、



挿絵 平尾忠郷

を合わせて仏様と一体になることを意味します。私たちが仏様と一体になった瞬間から、私たちの全身が清められるのです。両方の手のひらを合わせていること、

一方、線香をあげたときの香りや焼香で焚かれる香りは、私たちの心の汚れや、様々な汚れを清めてくれるものと伝えられています。

さらに、香りは、故人や先祖様の食べ物になるという「香食」の教えがあります。その由来は、俱舎論という仏教の経典にあります。つまり、目に見えない故人や先祖様は、目に見えない香りを食べられるということです。香を供養します。

仏や故人に想いを集中して、焼香をすることにより、心が清められます。そして、故人に抹香の香りをささげ、冥福を祈ります。

また、香りが空中に広がることは、仏教の教えが広がることを意味しています。さらに、香は時間が経つと良い香りがなくなり、灰になってしまいます。これは、人は皆いずれ消えてしまふということを表しており、諸行無常を教えること、

に焼香の意味を理解して香を焚きそして合掌すれば、仏様への深い感謝ができ、想いを込めて故人を弔うことができるでしょう。

この他のお供え物として、お花とお灯明があり、それぞれ仏様の慈悲と知恵を象徴しています。お花は、見る人の心を和ませ、愛情や優しさの象徴ともなりま

す。お灯明は、煩惱のため暗がりを知恵の光明で照らし、正しい道へと案内します。お供えをすることは、供養をすると言います。ご本尊様やご先祖様に真心をもってお供えし、同時にその功德によって、自分も良き心が養われます。

いずれにせよ、お供えをする時に大切なことは、「おかげさま」という感謝の気持ちで合掌することだと思

います。

けています。これを仏教的な視点で見ると、右手は清浄な手(仏様)、左手は不浄な手(私たち)となります。右ほとけ、左おのれと合

わす手の、内ぞゆかしき、南無のひと声」という句があります。この句は、両手

掌は、仏様と私たちが一体

あります。